

職員紹介

～2024年度(8月)から
2025年度着任～

びわこ学園医療福祉センター草津



薬剤師/岡 恭代

- ①それぞれ専門性をもった多職種が連携しながら、利用者さんの治療や生活を支援していると感じました。
- ②これまでの経験を活かし、びわこ学園の一員として、利用者さんの治療に貢献していきたいと思っています。



心理判定員/山下 美文

- ①利用者さんの僅かな変化への気づきや思いに寄り添った関わり、また、日常的に多職種間で意見交換をされている場面はとても印象的で、学ばせてもらうことがばかりです。
- ②利用者さんや外来患者さんと丁寧に関わりながら、その方の理解を深め、心理としての役割を少しずつでも担っていきよう努めたいと思います。



看護師/岩井 なぎさ

- ①利用者さんとの関わりの中で反応や表情の変化に気が付けた時が嬉しいです。
- ②利用者さんの生活が充実できるように日々丁寧にケアを行っていききたいです。



看護師/太田 聡

- ①日々を過ごされる中で利用者さんにとってより良い日々を過ごしてもらおうと取り組んでいる多職種の方々に感謝しています。
- ②自分もその中の一員として日々精進し、利用者さんに関わっていききたいと思っています。



看護師/上原子 ちひろ

- ①利用者様のささいな変化に少しずつ気づけるようになってきたなと感じた時。
- ②まだ不慣れなことが多々あるので、日々の学習や先輩の力を借りながら成長していく。



看護師/久保 李香

- ①毎日仕事をしていく中で、利用者さんの小さな変化に気づくことができるようになってきたことはとても嬉しく思います。
- ②まだまだ覚えることも多く毎日大変な日々ですが、利用者さんと一緒に時間を共有しながら仕事を頑張りたと思っています。



看護師/塚本 直人

- ①生活介助が多いので大変というのが第1印象です。呼吸器の方が多く、経験が少ないために難しいです。
- ②個別性に合わせた看護を考えて、遂行できるようにします。



看護師/中野 寛子

- ①利用者様の個性を考えた看護・生活支援が日々の活動に沢山盛り込まれていることです。また呼吸器を引っ張りながらのお風呂介助は驚きました。
- ②慣れない事が多々あり右往左往しているところですが、個性を考えたケアが1年後にはスムーズに出来て、良いチームワークが取れる様にしていきたいです。



看護師/吉村 知子

- ①利用者さんの活動などに同席し、利用者さんの笑顔や表情の変化などが見られたときはうれしかったです。
- ②臨時職員から正規職員になったので、より深く利用者さんのことを知り、生活を支えさせて頂きたいと思っています。



看護師/伊東 由花

- ①利用者さんの生活の場でそれぞれがその人らしく生活できるようにケアを行うなかで様々な反応や表情をみることができ嬉しく思います。
- ②自分が理想とする看護を目指しながら、利用者の思いを常に考え寄り添った看護ができるように頑張っていきたいと思っています。



看護師/鈴木 孝一朗

- ①当初考えてたよりも多くの業種の人々が関わっており、たまに帰宅されたり推しのコンサートに参加したりと、その人らしい生活を送られているなどと思います。
- ②職員は利用者のご家族様より長い時間関わる事も多いため、「第二の家族」の気持ちを持ってケアや療育活動に積極的に加わっていききたいと思っています。



看護師/芦原 希乃花

- ①利用者さんとの関係性を築いていく中で、意思疎通が図れたり、利用者さんの笑顔がみられることに看護の楽しさを感じています。
- ②毎日の看護に、楽しさややりがいを感じながら、利用者さんにとってより良い看護を提供できるように日々頑張っていきたいです。

今年度もはや後半。着任された皆さんは、4月以降定期的に研修を受けながら、配属部署で先輩職員と共に利用者支援に頑張っています。

就職してこれまでの日々の中で感じていることやこれからについて綴ってもらいました。

【自己紹介について】

職種／名前

- ①(就職して)印象に残っていること・うれしかったこと
- ②これからの抱負



看護師／大橋 愛紗

- ①日々の関わりの中で、個別性に応じた対応をとれるようになっていき、利用者の皆さんの笑顔や反応が返ってくる事が増えてきました。とてもやりがいを感じています。
- ②利用者の皆さまはもちろんですが、そのご家族さまにも安心して頂けるような看護師を目指して、日々学んでいきたいと思っています。



看護師／草川 晶子

- ①初めは分からなかった利用者さんの表情や考えていることが少しずつ分かるようになり自分なりにコミュニケーションを取れるようになったことが嬉しいです。
- ②利用者さんの個別に合わせた関わりや家族さんとの関わりに積極的に家族看護の面も学びたいです。



看護師／豊沢 竜太

- ①コミュニケーションを図ることの難しさを感じたと同時に利用者さんの気持ちを読み取れた時は嬉しかったです。
- ②一日も早くそれぞれの利用者さんの特徴を理解し、看護師が替わっても継続看護が提供できるよう努めて参ります。



生活支援員／田中 稔乃

- ①サークルなどに参加したり、外出したりして利用者さんが意欲的に行動されている時、生き生きとした表情を見た時、その場に居れることが嬉しくなります。
- ②利用者さんも職員も、生き生きとできる時間が少しでも増える事を願って、がんばっていきたいと思います。学ぶことがたくさんあると思います、ご指導宜しくお願いします。



生活支援員／野間 風汰

- ①利用者さんと関わりを持つ中で、以前よりも利用者さんの趣味趣向が分かるようになってきたことや食事や水分を摂って貰えるようになった事を嬉しく思っています。
- ②日々の中で利用者さんの体調やして欲しいことは変化していく為、その時々合った支援ができるよう利用者さんの変化に気づく事が出来るようになりたいと考えています。



書記／赤坂 智子

- ①年1回、看護研修(保険や施設のお金等)の講師を依頼してもらえたことです。
- ②医事課の立場からみえる問題について、提案・検討して改善に努めたいと思います。



書記／小林 ルミ子

- ①医事課で20年近く組織の流れを見つめながら、他部署とのやり取りの中で小さな変化を紡いできたことは「医事」ならではなく嬉しく感じてきました。
- ②電子カルテ導入を機に他部署の人との直接的な関わりが減りましたが、全体を見渡せる医事課視点を活かし、今後も裏方として支える存在であり続けたいです。

びわこ学園障害者支援センター



相談支援専門員／吉田 幸泉

- ①利用者さんとそのご家族、支援者が同じ方向を向いていると実感した時。
- ②いろんな方との出会いを大切に、またその縁を必要とする方々に繋げていきたい。



生活支援員／木下 勝登

- ①呼吸器を必要とする重い障害をお持ちの方でも在宅で過ごし、地域の事業所に通う生活をする姿が印象的でした。
- ②利用者様に「楽しかった」と思っただけのように、日々充実した活動の提供が出来るように努めます。



生活支援員／井上 和美

- ①日々の過ごしの中で、少しでも利用者様の思いに近づけたかなという感覚があった時嬉しく思います。
- ②利用者様・職員ともに毎日楽しく・おもしろく過ごしたいです。



看護師／北村 真理

- ①利用者様が笑顔や何らかのサインをしてくださった時に、うれしく思います。
- ②利用者様が毎日安心して楽しく過ごしていただける様に、びわこ学園ならではの看護を学びながら、成長していきたいです。

職員紹介つづき

びわこ学園医療福祉センター野洲



医療部長・医師／神谷 一郎

- ①本人さんはどう思っはんにやる。この言葉に、びわこ学園の全てが込められているように思います。
- ②One for all, all for oneの精神で利用者さんを支えたいと思います。



看護師／麻田 花鈴

- ①利用者さんと活動や行事、日々の過ごしの中で一緒に楽しい事を共有することです。
- ②利用者さんとこれからも一緒に楽しむことを大切に働いていきたいです。



看護師／岩澤 光沙

- ①利用者様の笑顔と、スタッフの方が、親切に分かりやすい指導をしていただき、毎日、嬉しく思います。
- ②早く利用者様との信頼関係を築き、元気に楽しく頑張りたいと思います。よろしくをお願いします。



看護師／浦山 昌美

- ①他職種で連携して働かれていたことが印象に残りました。また、相談員の中島秀夫先生の講演資料の言葉が印象深かったです。
- ②利用者の方々の思いが聞けるよう日々努力していきたいです。



看護師／北野 裕子

- ①喜怒哀楽と一緒に感じられることが人間らしくてとても良いと感じました。利用者さんと職員が共に生きている感じが好きなおところです。
- ②共に育っていかれたらと思います。



看護師／岩崎 昌敏

- ①いつも表情が乏しく笑顔が見られなかった利用者さんと笑顔でコミュニケーションが取れるようになったとき。
- ②どう思っはるんやろ？と常に考えながら関係性を構築出来るように関わっていきたく思います。



看護師／津嶋 鈴華

- ①散歩に行ったり活動に参加する中で利用者さんの笑顔をみれたこと。
- ②不慣れなことも多いですが利用者さんにより良い生活を送ってもらえるようもっと看護を学んでいきたいと思っます。



生活支援員／橋本 実咲紀

- ①始めにお食事を食べていただいたときが一番嬉しかったです。
- ②利用者さんのことをより深く知りその人にとっての最善の支援とは何か考えること。



生活支援員／尾花 雅彦

- ①男性利用者の排泄介助の場面で、汚れたところの掃除をしていたら利用者さんに「いつも、ありがとう」と言ってもらえたこと。
- ②何度失敗しても、「成功体験」に繋げ、いつもポジティブな気持ちで支援を行い、利用者さんとの関係性を深めていきたいです。